

第2回柴田町新図書館建設検討委員会 議事要旨

日時 令和5年8月25日（金）午後2時から

場所 保健センター 4階 多目的ホール

1 開会

2 開会のあいさつ

3 出席者紹介

4 議事

確認事項

（1） 前回の振り返り

（2） 槻木分室の年齢別利用状況について

報告事項

（1） 新図書館整備に向けたアンケート調査結果報告

会長：中学生アンケート配布方法について教えていただきたい。

事務局：作成したちらしを中学生に対して配布し、回答いただいた。高校生については全員配布。中学校については、学校ごとに学年を設定して配布。中学生 715 人に配布し 218 の回答をいただいた。回収率としては 30.5%

会長：31 ページに記載のある小学校区の回収状況について大きなばらつきがあるのは、配布方法が影響しているのか。

事務局：学年の回収状況についてみていただくと、中学1年生が 3.7%と少なくなっている。中学1年生については船岡地区の中学校にお願いしたので、その回答が少ないことが要因であると思う。また、柴田小地区は町民の絶対数がもともと少ないことが要因であると考えられる。また西住地区は中学生が隣の学校に通う学区のため、回答者がいない状況となっている

アドバイザー：アンケートの結果を見るときは注意が必要で、回答率についてみていただくと、配布者全員の回答ではないということ。そして、新図書館の建設に関心がある方が回答した可能性が高いということ。全く関心がない人のニーズは拾いにくい。その中でも、12 ページに記載のあるような記述式の回答内容については、重視した方がよい。選択式は選択肢に引っ張られることもあるが、記述式は本音が出ることが多い。「こども連れで行きにくい」といった意見、こういった要素は潰していないといけない部分。

また、関心を持って回答した中でも「本や雑誌を読まない」と回答する方が一定数いる。「市に図書館があることを知らなかった」も割合としてある。関心が無い方も含めるともっと高い可能性もある。

また、47 ページに記載の中学生が求める本の種類について「物語」がトップとなっているが、今の中学生は物語をあまり読まない傾向がある。それよりも「職業選択」「部活動の HOW TO 本」の方が

圧倒的に人気。読書好きがアンケートに回答しているから、物語を選択する割合が高くなっているのだと思う。

会長：アンケート結果についての注意しながら見ていきたいと思う。図書館が遠いという回答も、住んでいる地域として遠い地域の回答が多かったことも考慮しておくことが必要だと思う。

また、「こども連れで行きにくい」という部分に、音の問題があると思う。ゾーニングに関する課題も垣間見える結果となっている。

委員：新しい図書館を建てるのだから「本を多くしてほしい」という意見はとてもまっとうな意見。来て当たり前の意見だと思う。また、図書館というものは、場所が悪かったり駅から遠かったとしても、来る人は来る。気仙沼の山の上にある図書館も利用者がいる。そういった部分ではなく、図書館としてどういったコンセプトとしてやっていくのか、という部分を考えることが必要であると思う。また、「こどもがうるさい」という利用者については、職員が割って入らないといけない。そして、両方を宥める必要があると思う。「貸し出し状況の把握」や「本を探すサービス」についても、図書館システムで対応できるだろう。こども連れへの対応としても建物の構造として階層を分けるなどして解決もできるだろう。

私が新しい図書館に求めるものは、「資料の量・質」「図書館サービス」「職員の数」。これらがそれなりあるのであれば、新しい図書館はうまくやっていけるはずだと思う。新しい図書館がどういうコンセプトでやっていくのかを明確にすることが必要。

会長：お金がつけば解決していける課題も多い。どういうコンセプトでやるかが大切だろう。

委員：やはりサービスが重要だと思う。本の数を揃えるのも限界がある。予算を増やすと冊数は増えるだろうが、県立図書館よりも多い品揃えにはなれない。

地域に密着したどんなサービスを提供するのが重要で、こどもの勉強やディスカッションの場にアドバイザーが付くとか、そういったサービスを提供していけることも大事だと思う。

また、ソフトとハードが一致していないと、今後の運営が難しくなる。こういったサービスがしたいから、こういうハードにする。こういった図書館になりたいから、そういう風に人を配置するということに、コンセプトにあった整備を進めていくことが出来れば良い。

県民会館に関する議論の場でもそうであるが、委員さんの意見が反映されにくい。良いことを言っているのにな、を反映できない現状がある。「こういう風にしたい」の意思がしっかりとあれば、今後の運営も進めていける。

委員：複合施設として整備が進められていく中で、「人が集まる場所」というコンセプトも大事にする視点が必要であると思う。

「図書館に行っても仕方ない」という意見が一定数ある中で、本を借りたい人は図書館に行くであろうし、本好きであれば図書館に足が向かうと思うが、本に意識を向いてない人を図書館に向かわせる方法が必要になってくるのではないかなと思う。

カフェの併設、テラスで食事できる、ドッグランがあるといった、「ちょっと寄って、帰りに本を借りて帰る」そういう空間づくりが必要なのかなと思う。

委員：回答数を見ても若い世代が少なく、私の周りも図書館に行くことはほぼ無い人が多い。でも、1回行ってみると、意外と良いじゃん、となって多くの時間を過ごせる場所になったりする。図書館に行ったことが無い人は、「図書館＝本を読むところ」というイメージがある。そういう人に来てもらうためには、「本を読む・使う」以外の目的が必要だと思う。違う目的があって、たまたま図書館に来たら寄ってみようというきっかけが必要。そして、1回使ってみたら、また使ってみようか

なに繋がる。

あとは、司書さんの活躍で図書館は変わると思う。蔵書の内容、レファレンス、他の図書館からの本の移動・貸し借りといったたくさんの取組が良い図書館に繋がると思う。

委員：コンセプトに記載している基本理念としての「スローガン」は、あなたの図書館はどんな図書館ですかと聞かれた際に、こういうものですよと伝わりやすいものになると良いと思う。せっかく作る新しい図書館が出来た際、ださい図書館にはしたくない。

また、新しい図書館に対する「次の世代」の関わりも重要な視点。次世代に繋いでいける図書館にすることが、基本・ベースかなと思う。

会長：ビジョン・理念やキャッチコピー、基本目標について考えていくときは、細かい部分から考えるのも一つ。基本目標から理念へ考えていくのも良いと思う。

委員：①から⑤まで基本目標が示されているが、この項目の部分が大事なところなのかなと思う。優先順位をつけて、どういった順番にしていくのか、何を大事にしていくのか、考えていけると良い。ちなみにだが、カフェの併設というのは実現可能なのか

事務局：アンケートでは、カフェ機能への意見が多く出ているのは認識している。その中で、その意見を反映してカフェを作ったとして、本当に利用者が来てくれるのかとなると、分からないのが実情。図書館の中とは別エリアとなるが、カフェ機能を持つ場所を作ってみたいなという思いはある。しかし、お店に入ってもらいと継続的に営業をしていただかなくてはいけないので、そのあたりは考えどころ。軽食を食べたり、飲み物を飲んだりという場所の確保としては、考えていきたいと思うが、その場所がどういった場所となるかは、今後検討を進めていかないと考えている。

アドバイザー：図書館側からすると、併設カフェの運営で採算が取れるようにすることは厳しい。柴田町くらいの人口規模では、難しいだろうというのが本音。しかし、ゾーニングとして、そういった食事ができたりする自由な空間については、何らかのエリアが必要だろうと思う。

会長：居心地の良い居場所づくりとして、今後どういった場所をどのように提供するのかは、考えていく必要があるだろう。

委員：名取の図書館に伺った際、本棚と本棚の間のすごく狭い場所に座って本を読んでいる人がたくさんいた。狭い場所、こじんまりとした所は、本を読む人には意外とハマったりするみたい。

アドバイザー：こどもも狭い場所が好き。そういった特性を活かした図書館も多い。

委員：こどもは囲われている場所が安心するようで、かまぐらのような場所を好んだりする。子供の集中力を保つための構造として取り入れられてる図書館もある。またスプロールといって、無秩序な構成にすることで、様々なニーズに答えられる図書館構成としているところもある。

アドバイザー：無秩序という言葉があった。様々な種類の椅子を設置して、自分の好きな椅子で読書するような構造。取り入れている図書館が最近増えている傾向。

委員：気仙沼の図書館や石川県立図書館もそう。色んな椅子が置いてある。個室でゆっくり読みたいニーズも、中高生のように話し合いながらの空間を求めるニーズも応えられるようになると良い。図書館に来た人が、こういう場所もあるんだなと知ってもらって、今後も使ってもらえるような。

アドバイザー：2階建てが難しければ、長屋のようににぎやかゾーン・サイレントゾーンを作ったりして、対処するのも良い。ニーズをどう埋め込んでいくのか考えていくのは重要。

委員：私もすみっこで本を読むタイプ。その理想が叶う、そんな場所があると良いと思う。

委員：「もう一度行きたい図書館」であってほしい。居心地がよい図書館。そして、せっかく図書館に来たからには、本を探して借りて行って欲しいから、本を選べる場所の充実も大事。

ソーニングについても、ぜひお願いしたい。人それぞれ求める環境は違うので、椅子だけでなく、土管の中で寝転がりながら本を読めたり、空間を選択・そして占有出来る居場所づくりが出来ると、来てよかったと思うことが出来るだろうと思う。

柴田町は、こども達への本のプレゼント等たくさんの取組をなされていてとても良い。さらに、子育て家庭への支援として「こどもを連れていく場所」がある町になるともっと良いと思う。読み聞かせイベントへの参加や地域イベントへの参加も一定数あり、子育て家庭は「連れていく場所」があると良いなと感じていると思う。そしてそういった場所は、保護者同士の情報共有の場にもなる。そういったニーズにも応えられると良いと思う。

また、アウトリーチという言葉があったが、柴田町は広域だからこそ「車でまわる図書館」があると良いなと思う。おしゃれな図書館の車が学校に来るだけでこどもたちは大喜びだろう。そこに、アーティストを連れて、各地でイベントをしたりすると、発信力強化にもなる。

ハード面として、「これをするからこう建てる」というだけでなく、ソフト面としても「これをしたいから人をこう配置する」というように、柱を立ててやっていけると良いと思う。

アドバイザー：ヨーロッパ諸国は図書館先進国と言われ、図書館機能の充実や図書館の活用がしっかりとなされている。その中で、図書館は「家族連れで行く場所」として整備が進められてきており、初夏を低くしたりこどもが選びやすい工夫がなされている。図書館は家族の交流が出来る場所として「公園」に近いものになってきている。

図書館コンサートとかのイベントにより、今まで図書館に来ていなかった方が図書館を訪れ、本がそこにあるから、せっかくだしと本を読む。そしてまた来たいな、と思える図書館になることが大事な視点であると考えられる。

委員：「親子で図書館」という意見は、こどもの読書推進としても重要なポイントであると思う。図書館を利用する世代は、シニアが多い傾向にあり、時間・距離的な問題もあると思うが、図書館に時間を費やせる世代が限られている印象。

先ほど田中委員がおっしゃっていた「図書館に勝手に行く人」は、本の洗礼を受けた人だと思うし、やはりこどもはきっかけが無いと図書館には行きにくい。またさらに、こどもが図書館に行くには必要な要素で、学校図書館では物足りなくて、もっと本が読みたいと思う子がいたとしても、親が積極的に図書館に行こうとしないと、こどもが図書館に行くことは難しい。こどもがもっと読みたいことへのハードルとなってしまう可能性がある。

また、フリースペースに関する意見もたくさん出ていた。私も賛成する。その時によって使える場所、何の目的でも使えるような場所があると良い。

また、図書館は地域の資料を保存する場所としても重要であると思う。地域の映像として昔の祭りの映像とかアーカイブみたいなものを残していき、たまに放送してみんなで楽しむ企画もあると良いと思う。世代間の交流にも繋がると思う。柴田町だからこそできる町の歴史が保存された図書館になると良い。

コンセプト案の資料については、「グラウンド」という言葉に魅力を感じた。「ベース」や「プレイス」でもなく、育てていく場所としての「グラウンド」。良い言葉だと思う。

委員：全生徒数 46 人の学校で、「目指せ全校で 3000 冊」を目標として掲げていたところ、3500 冊の目標達成となった。今年は 4000 冊を目指して頑張っているところ。その際に、こどもへの読書推進の一環として、保護者にも貸出を行ったところ、1 冊の貸し出しもされなかった。やはり保護者は平日仕事の方がほとんどで、借りに来れない。動けない。土日に家族で行って楽しめる図書館として

整備していけるととても良いと思う。

また、読む空間としてもドーム型の場所に入って家族3人で本を読めるような、親子で読み聞かせが出来るような空間があると良い。ミニシアターで映画を流して、帰りに本を借りて帰るような休みの日の居場所の提供にも繋がると良いと思う。

あと、こちらは校長会代表として、申し上げさせていただければと思うが、柴田町に有名な陶芸家さんがいらっしゃる。そういった方と一緒に陶芸したり、体験したりできるイベントの実施もあると良い。また、小室達さんの作品を展示する計画が立っており、図書館へのアプローチエリアに飾るというアイデアも出ていたのでこの場でお伝えさせていただければと思う。

副会長：私は昭和 28 年の戦後 8 年くらいの生まれで、小学校に入るまで幼児教育を受けてないが、学校に入る前に字は読めた。たぶんそれは、近所に紙芝居屋さんが来ていたのを良く見ていたからかなと思う。駄菓子に釣られてではあるが、紙芝居をすごく楽しみにしていたし、そのころのこども達は娯楽が無かったのでみんな来てた。図書館でも、移動図書館や巡回図書館といった本との出会いあるイベントがあれば、そこにお菓子が付いていたりしたらきっとこども達がたくさん来ると思う。建設予定地は、町の中の位置としては、端の方。船岡地区から遠い場所へのサービス提供もしつつ、実際の図書館にももちろん足を運んでもらえるイベントもできると良い。

会長：こどもをはじめとした色々な方が図書館に興味を持てるように、イベントや展示、アクティビティを活用していけると良い。また、それぞれの思う方法・場所で本に向き合える、多様性を持った図書館になるという視点も大切という意見が出た。そして、サービス提供については、優先順位も大切な視点であると思う。

委員：私も図書館が好きで良く利用するのであるが、やはり図書館というものは「来る人は来るし、来ない人は来ない」。来ない人へのアプローチを工夫していくことは大事だと思うけれど、実際にこういった基本構想を立てて、拠点づくり等に取り組むという目標を立てて、運営していく際にうまくいくものなのか。実際にコミュニティを生んだり、交流を生んだりしたのかについても、知れる機会があると良いと思う。

アドバイザー：基本構想で謳っていることは決して夢物語ではなく、実際に図書館でビアガーデンを開催し、年 4 回の売上を図書館の資料費としているところもある。

図書館でコンサートをすることで地元の音楽が活性化したり、工芸品の展示で売上に繋がったりという事例もある。図書館での展示は、美術館より敷居が低く、芸術への入口としてとても良い。そして、芸術に興味を持ったら、図書館で調べて本格的に始めるのも良い。多くの図書館で、基本構想で定めた方向性の実現が進められているところ。

会長：視点の⑤の住民運営も大事な視点だと思う。地域と図書館が一緒に育っていくという視点もあれば良い。

アドバイザー：住民と一緒に運営していくことも重要。また、外構を重視する図書館もあり、さつまいもを育てたりもしていて、こどもが帰りたがらない、もっとここにいたいという図書館もある。住民の幸せを具現化できる図書館が増えている。

委員：本を読む以外の選択肢がある図書館は良いと思う。本を読むだけでなく、楽しい空間があるから行くような図書館も良い。

以前、仙台市で選挙会場の前でインタビューを実施したことがあり、その際に「こども連れで行くところない」「駐車場がなくてこども連れで行きにくい」といった意見を多く聞いた。休みの日に行く場所として図書館が選択肢の 1 つになれるのは良いことだと思う。

会長：「家族連れ」は、今回の会議における大事なキーワードになった。公園化した図書館という言葉もあったが、フリースペース的な選択肢のある図書館、自由さ多様性を受け入れる図書館となっていければいいと思う。

委員：コンセプト案として示してある①～⑤は、良い視点であると思う。それに関連して、現時点での状況について教えていただければと思う。これらの項目に関して、現状できていない事があるのであれば、それに関する事情や理由についても教えて欲しい。実現に向けてネックとなっていることが明らかになることは重要だと思うので。

事務局：やはりスペースが限られていることが1つ大きな要素としてあると思う。試し読みをしたくても出来ない（場所が無い・蔵書がない）。また、狭いからこどもの声も気になってしまう。司書等によるサービス提供、レファレンス等は取組次第で改善していけると思うので、今後改善していくべきものとして考えていければと思う。

会長：①②についてしっかりと拡充していき、そこにプラスして「図書館によく来る方以外が気軽に来れるように」「アクティビティとして、本以外にも触れられる図書館」の視点が入ってくることが重要。そして、③については、こどもの読書推進に向けては、親も含めた「親子」の視点も重要という意見が本日の意見としてあったかと思う。

委員：前回の会議以降にコンセプトに関して集まって検討させていただいた。こちらの内容についても、参考にしていいただければと思う。

会長：天童市の方でも、現在図書館を建てる計画をしており、建設に向けたディスカッションの場をオープンにしている。こんな風にいろんな人を巻き込む場所として図書館がなっていけば良いなと思う。

また、種から花に成長するコンセプト案が出ているが、「花から種が生まれ、種を蒔く場」も追加して、その種が芽吹いて循環が起こるような、永続的な花畑のイメージ、そしてそこから生態系がでるような場になると良いなと思う。

5 連絡事項

事務局：次回会議については、10/27の14:00から、会場は同じ保健センターにて実施予定。意見シートについてもまた配布させていただくので、ご回答のほどお願いしたい。

6 閉会のあいさつ

7 閉会

以上